

いのちと健康を守る活動

ラワン村にきれいな水が届いた！



スルタンクダラト州マノボ民族の村の簡易水道工事。9月には、幹線と支線パイプの接合が終わり、山頂の湧水が8つの共同蛇口に届きました。(今井記念海外協力基金助成)

—CMIP ジョジョのクリニック報告から—

私たちの支援金で実施できる巡回診療は年 10 回ほど、一方、対象の村落は 50 以上になりました。

めったにない CMIP 巡回診療チーム来訪の知らせはすぐ近隣の村々に伝わります。7-8 月も、各会場 180 人前後の患者が集まりました。その半分以上はインフルエンザあるいは通常の風邪です。

医師を伴わない診療で、助産師ジョジョさんの役割は、解熱剤等を処方し、風邪に効くラグンデの葉を煎じて飲むことや日常生活の注意だけですが、肺炎等、重症化を防ぐ上で役に立っています。

<2013 年 7 月—8 月の報告より>

CMIP クリニック 対応患者	8/24-29 ノビシエート寮で学生数名がインフルエンザになり、市販薬の他ラグンデの葉の煎じ薬を処方した。
巡回診療	7/19 (マルゴン町バリテ) 歯科 31 名 一般診療 181 名(内 101 名は風邪) 8/9 (マルゴン町ゴメロ) 歯科 26 名。 一般診療 167 名 (内約半数は風邪)
特別支援 事例	7/8 (マラバタン町ナブル) 20 歳男性 膀胱炎の症状で、ジェネラルサントス公立病院で検査と治療を受けた。 食生活の注意と免疫力を強めるハーブ薬ターメリックを勧めた。 7/15 (マルゴン町アルキカン) 38 歳女性 肺結核が再発。要請を受けて、医薬品代の一部を支援した。
医療保険 加入手続 指導	8/23(ティボリ町グルンガ) 医療保険 Philhealth 加入推進キャンペーン実施。一部は、政府の最貧層対象教育医療支援 4P を通じて加入していたが、大半は、婚姻届や出生証明などの手続きを知らず、未加入だった。

35 名が参加した保健ボランティア研修

— PIHS ナプサさんの報告から —

鍼灸、マッサージやハーブ薬活用などの代替医療を推進して健康な村作りに励むという目的のもと、9 月 27-28 日の二日間、ジェネラルサントス市内の研修センターで、セミナーを開催した。8 地区から保健ボランティア 38 名が参加した。

ゲスト講師のラガレ医師は、薬局の化学医薬品は高いだけでなく、いろいろな病の原因にもなっていると指摘。自身の体験から伝統的ハーブ薬の活用を勧めた。PIHS 理事長ジョイ医師も二人の息子に発達障害が出てきているのは、宣伝や広告につられて添加物の多い加工食品を食べさせたからではないかと反省していると話した。また、裏庭で野菜を作り、手作りの料理を子どもに与えることの重要性を説いた。

保健ボランティアたちも、各地区の事例や課題を報告し二日間の日程を終えた。参加者は改めて、ハーブ薬普及や東洋療法の重要性に気付いたようで、「貧しいから薬が買えない、病院に行けない」と嘆くのではなく、皆が日常の食生活に関心を持ち、代替医療を活用するようにしたいと、決意を新たに各村に戻って行った。



無肛門症ナセル君支援に感謝 —近況報告—

会員・市民のご協力により、8月に検査入院したナセル君。一時気管支炎になり検査を中断しましたが、今は体力も回復、今週、本手術と決まりました。父母については、最終的に育児放棄が確認され、小学生の姉二人は親類に引き取られました。病院では PIHS スタッフが付き添っています。なお、当団体からの一次支援金(全 25 万円のうち 14 万円/6 万ペソ送金済)については、交通費と食費 1.2 万ペソ、医薬品・検査 2,400ペソ、他計 2 万ペソの使途報告が PIHS からありました。(10/21 事務局)